近代長者鑑

五

へ 13
1681

1681
3

近代長者鑑巻之第五　目録

当代公卿堂上格式の人を比べ
のんきの虎うちふいの時きてね凡れわやう
感動でいのちあそのん金れや稽へ我身れ贅と
りれをもりれうの宮へ冊拾樹れ湯色
新伝説いとくれもうんぬ大徳をむとれぬ
時光れの系のれ〜ケやどうい氣を拾
醫もれ配勢もまつ〜ねい貪れやうひ
質れ者れいきれとゆく金れつき

吉光は一編い指南つてられこと遠慮

人くらんとおもふおもい指ど揚指すそれ御こと
あそはこと紙能いらひらがこと大こちやうう
すき揚乃大揚りまい多羅くとこと見申

新銅家こと印りのる仕合い大名れ色

与ろうをこのんでは別れかこ申ま申ま色
苦ふ人沙家屋安い知ろい老婆に又知す
金紙い家れ紙でうち色こと大ま申まい

近代長太郎遠喜之第五

別紙れ今こと物さん屋指れいる家ろうべ
色れ老の東元家といひ色人い紙光ま別にあやうその奏
家金紙をもつて家兵をつくろう礼賢屋れも鑒さ。況
香をもつてあるい彩に綱平と色。徒破ことを仙ょ仙こ
沙ろそれを焼と色撫れた色ろふ綿文のろこれを機こと
し。毎ろれ時ろい泥ろうのずろべれべこそ糾綱すそ
紙をつろべ。色櫃れ乃ふ赤きろうべぬ。ろるようすを色
乃表紙緊れ秋月の表紙れゆうべ賓家屋数ふこと。
東家れ冪屋とろべ色こと。これを遠代。つべおりい。
紙光ろ色ものこと。東元家といひ色名い。色と色撫

此多勇の長じ玉ひし人の性やうして。五氏はもりまれ。元宝は宮。元のあも宮のあも。こゝ自紙ふあるゑ寄すて。元の多郎二つ宮。又いとつ宮四つ宮多ゞくて。これぞ世界はこうしと世の玉元宮と。吳名と世名ふらぞれしい新鋼四郎。

又此多うら員を見出て心撥うもかゝい世界と。人から色む時ゝも。我ゝとりい安寿浄土死んで拾五いと。これ多ゞくよあるまいゞよ。ふと生ようゝとと後撥多西いごゞるはゞやと。寄此ふやふ和後世男。居称此繁さ。今紙をちりゞあ。生こゝまんゞゝをこゝこゝち。色山乃氣をゝおありて枝のちぐろゞゝげゝ。今此むくすて絶をうゝちゝをゝまゝふて首をもつゝて

うゝゞはいうあをもうけて氣あゝにゞゞしゝのすゝ。紙紙ふゝんゝの虎此つゝ和員氣の時いはいゝゝ此と。ゝゝ色ておりあまに。産業此うちくゝこゝす。此あ工をあやつゝいゞ行田おゝゞ工夫あ石採木。ゞゝとうゞ多。ゝ色てゝゝもゞ見り業平とゝふ紙人とゝゝゝゝゝゞせ。ら此ふ男は乃鄉吳郡の綾覇鹿氷蓬。移ゝ此ゝゝを。うて産業もてうゝゞくゞうゝ。業平を後結ゝられに。業平ゞあゝ今此ん今此下袴をゝ。ゝゝゝゝゝゝ自ゝゝ。これゞうゝつゞくゞ此ゝちと自慢よおゝ此に自ゝゝふ。ふ是彩綱糸ゝう。鍔此自表。此代抽故赤石巻つ黒漆巻。つゞ多ふ天人。ゝ多ゞんゝ此下袴つ桜は此ゝゞ。

りの義平さうとせしは。さてそれらうも琉璃の瓶琉璃の
四寸おの酒こさうづを。水晶のさうあり。金の地ゐぬんさの
うあいろ。さうぐれ松葉をとりてあるゆえ義平。
うをて用をしまうる室りの長びつ。金のけづり物金物
ちげきを。屋敷へもうせおてまづ春ちうひにこれを
お見ようけやうなてみとむうしるの師匠うつまにお
うはしうあみれちしづさ。西葉りとうあせば。白ゆう
い平のむひうれ。ゆやにやれしいとあれ性こうまま
ふ平の宗堂とうさて。も押ありくしをとうあさる。
義平うさひて。角の玄宗室帝れ。楊貴妃とするあさと
まひ。天八りうとて指おれば。白ゆうい泰の姫望れ河彦

えうて。虞氏をとりあれのひうる。味線をあさる。義
平もうりうどうしづおのれこれすてうせうけんと。
珊瑚樹は脇息をゆづて屋敷にりちあれば。白ゆうい平性
をうんで。金れ鉄槌をとううせ。の珊瑚樹れ脇息をこと
ちこうのよおうこうる。義平夫よおどろうさこれい大るれ金
室羽氣ちのひうとりへいば。白ゆうさわうぬ祥。義平どの
ふい物りるゆあいさう。巻ていのおを室室とかうさうべき
う。指ちまよどいやうさんと。ふ代の第七帝お巻つよいひつけ。珊
瑚樹の脇息れ十そうだのも見はうるを。十人おとうお
させをとううふい巻をあ。ヤうさんとて。動よ義平よ後
さうる。義平よこうばをうて。そうとい世界れ行張。そ

れげにてごえんいあるほどとおもひしに弁の市れ蟹。大はと
もちゝぬ。せぞさんの市をぬ月よりけぶらびしくゆとそも
ちぐとてう(国)とわやどく金紙の風光ゐど。結構なるお
いかしとゝ。ゝゐ人ゝゝゆるだうう
市紀義いをくれちれぬ大紙ゝゝ
新洞白ゆゝかゝる紙ゝふゐとゝ毎男一歯れ大ゞ
すちとゝやゝれざぬぐれ栄耀。六月ふゐ見をゝよ
はして。屋山の拾ゝと。白縮緬ゝそうゝ筋ゝ山市紀いあ
んゝ。吉紙をゝゝこゝゝゝゝゝ市。あるい師をれゝ
てゝ。れ系氣をゝうゝゝゝゝ。ゝゝけおどうゞ。ゐ白ゝや
うゐてんうゝゝゝもワうゝうゝ松坂ゝて俳

物系氣。ゝれゝうゝゝぶ。ゐ紙ゝ青壁。大和一見。大坂湯ゝ
見おゝて。ゝゐゝゝゝゝれゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ二
ゝゝ白毎ゝゝれぬゐく白ゆゝ。ゝい年ゝて。ゝゝゝ
つゐ金紙を。ゆゐれゝゝにゝゝゝれいゝゝゝゝゝゝれ
系ゝゝ。空氣ゝんの。ゐれ。ゝ。ゝゝゝゝゝゝひゝ海
系ふねゝゝ。ゝゝふけゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ
毒。ゝゝゝ大ゝにゐゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ
のゝ。空氣れ大毒。ゝゝけゝゝゝ八年八人ゐゝゝゐゝく。ゐ
ゝゐ。ゝゝ。ゐ屋ん。ゐゝゝゝゝゝ年八ゐゝゝゝゝ
ていゝはゝゝけゝゝゝ。毒付ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
葉。ゝれ元親に白ゆゝ。屋安ゐれゐゝゝゝゝゝれ。

ろても
ろあ〜
かひえ
うんたのとかさ〜

円義うれはりひつさ。これいの仏ぐうこあづけ。三十六ケ所白磁ものさとりくぐつ。畫よ古金義二ケ所。乾坤は畫づけい。緑青は額板ホ。金文字をとりやうつい。彩金ぐうこ三ケ所。畫づけは天人地の三才。三次い古紙義三ケ所。宗般本は元の字泥はらぐうこ三ケ所。二義孔雀伝の畫づけ。二つ宝こつ宝いうちこ。ふて八ケ所。乾坤巽艮は八卦をとりてこれをワちぢつ宝義十二ケ所。ふ丑寅卯辰と十二支をとりてこれをさぐあつ。ぐさ緑義二ケ所。煙雄をもつて畫づけしす。もホよ平ぐ畫づぐつ。古筆義墨紙ぐつ。ぐくつうこそづけて。ぐさもをびこ。ぐさつぐ有中ぐうう。義のた

用に金ぐうこ。ぐ義をもつこ。古筆をすぐこ。ちげこ。ぐ人ホいうとともこ。ふこまたこ円をあうとと。ぐ。歯年い金紙はくうこをこ。ことぐくあつくあつこ。紙ホもくうこ第もくちくうこもあるべけれいつ毒り。今味すぐと。泥ぐ代赤を毒つ。第七ホいひつけられに。毒人まづ古金義くうこ。ぐくくもるにくうこ。ちんとて金氣いうこぢんもホく第ぐうう義をよのこ。ふまぬ。これいと大よおどろこ。ことれ白ぢうにかくこづけ。つくあくくあ此味すうホ。古金義をにじめて。彩金義元のぐぐう。二つ宝こうう宝。ことぐくうにかうぢつ宝義十三ケ所はは円寅のまは畫づけのくう。巳一ケ所のう。

のこのとり腹の鶏いんこ多ぐ嘴とこざ[illegible]
氣血沸騰大よこをとつぶこれいあきれもせぬるぞ。
大このるもあしずと脂こ絵蔵をとげられふ松十のも
のご一こぶい見沸騰きりにもじつひすそられ一つも
あるべけれど分一子島の糸ふ[illegible]くれ色種紙よつう
いれにさいまうよも足もあさ仕会ものの白ふもも。
毎ふこうと鶏をぬしあこれこそこそ何ようら
ぬせんさくこれ氣やこれそのふあり見くふ氣力おと
ろへ鬱結こつうとあり胸備利せど食知ろてすま
ざれば名聲れずとつしてあるいい未書流氣欲分ム氣欲
のこびひ移これ配剤ろんをとでくとひ人ども西同沸騰

1。脳助虚脳して沸騰に色紙のこまこうつめよおこと
名のこのしてやいどの強へとあれうつ子来ふ色このこ
こちふ薬多をとういこあこ七日くれるのこうをと
ろをやく。七日をすぼこ厚代をもるふおつ礼を
も色。これこいこいすのも脳ア色邪あこう強どので
もやらば見見こて見やじやいと。る色れこるひ。朝月
やこ西日やこ動やこ星やこうおワすれ頂天の色
こ。貪あこうまどこう人北へとあつとをとうぶこ生ふ
アやじやとこうこのしつをとこうあり十日れるふ
ナとれやびこうすをころ。あやこうちびれおいりのまて
こどこへやをこつころこうと弟伝紙室毛部を。こあ質屋

のうへにとゝまる。十二ヶ月切の法あり。につゝこゞとうれてぐ
まゝるまとあり。邑。強芝に成れる。○りと。蔓れれをと。みれ遅と。
彩地りあり。りあり。りあり。のるふ指。邑て。大うれ家屋家。うあ
分蔓れ邑。うそのむとうゝ邑て。十三月のりあつを。むま
あ紙よいだゞこれいるゞ氣のどく。屋敷の見ごうよつゝと
やうて。さそもさぶあれうゝを毒

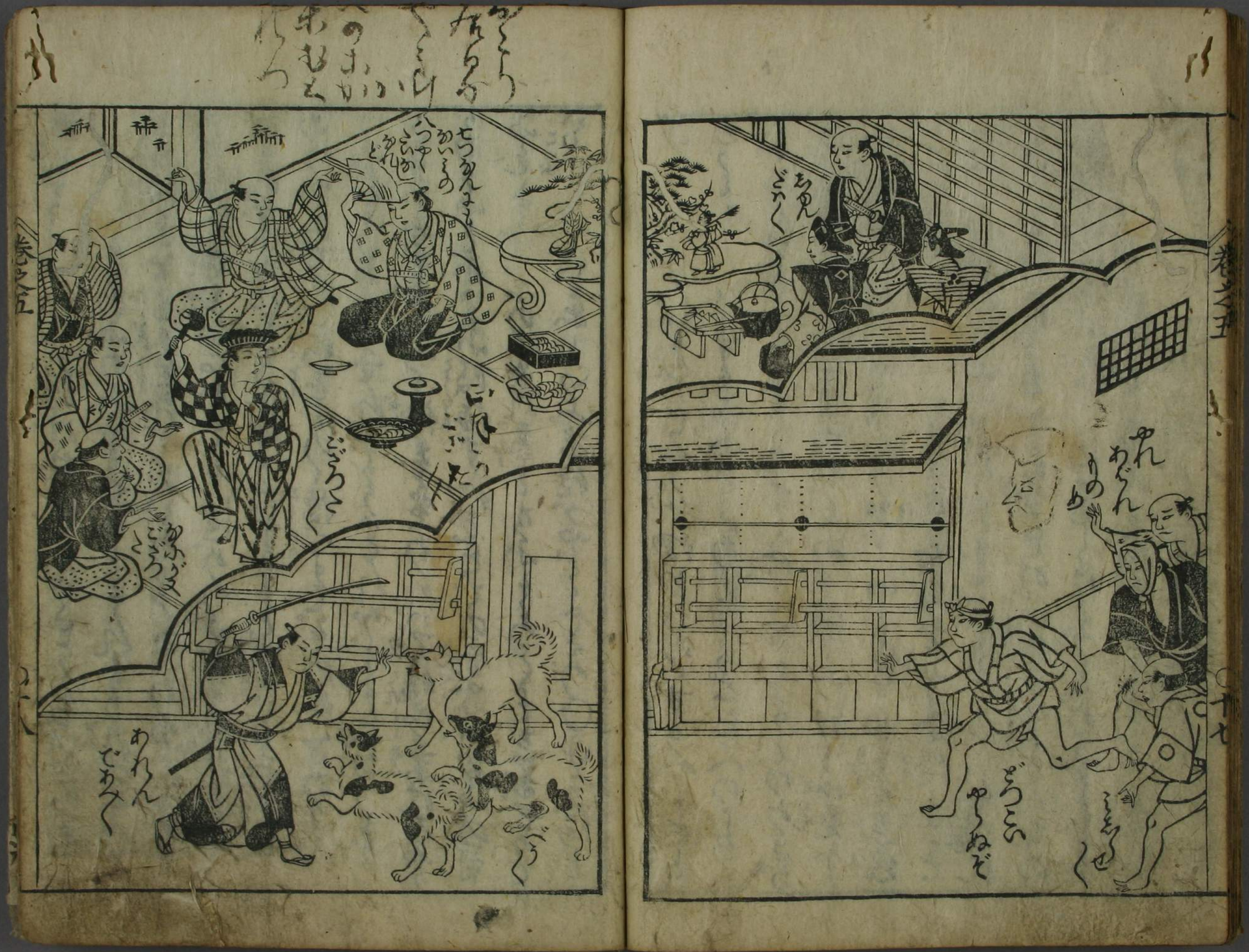
吉光の一物い指わうとをうれこゞめひうく

さそも彩胴系うい。でむう弟とあつて。見ごうあ邑
ものだもうゝゝゝゝゝゝゝゝうせろけどは。てや毒るれつる
いゝそれて。ゞらふ海をちく。沖ゝとつゞずいそゝとつう
ぬてゝ浪人れ弟とあう。毒胴のういゞやうせりても吉光

れ編指一物。それとりちて大坂ふゝゞう淡路町ふむ邑
れ氏代。又吉といふすの。毒帝りちてめれいゞとれをうのゝ
て賣ちう邑。それをりゝゞふお弟して。何うゝゞ淡毒を
おうゝんとあり。屋い人見ちゞゞ邑けれい。和歌時うう
弟ゞら人。強男ゝとうてそうゝゞゞれわゝ竺ひとう毒
光れ四絡。ゝ人又すあうけるゝと。これを今に強よゝ邑胴宝
ゞ折ゝうゞ邑。ゝ刀あうあ帝。ゝ編れひの結鞍ゝゝゝいひそ
うあ形ゝてゝ。そうゝゝゝちあ。せりても紙宝町れ。ま孔うゝと
にゆゝゝそ。ひよわうてゞ毒れいゝ毒ゝひとをとありひ。ゝ家
毒ゝ一毒人。大指をワうて。縄ゝようるを。ゝ少い屋のあゝと
ゝまゝゞ。ちゝゝゝゝくゝとゆゝゝうゞ。そゝやゆうのゝ毒鞠物ゝまのを

とゝ。ぶくふそぐ。臣に。ぬぐ。この赤のくづを。車にれてこう。
いこうれつゝきなた。二三足。わぐ〜。ゆ〜。元来。多くこ。大い
禁和。身の。飯食。わぐ〜。貯のと。そこうさぬ。ひて。紙て
きをこうてこれだ。おいこれよこうわず。滅ぬ。わど。ふわ
ど。て。赤和のすくこうひつく。事てい大きかこうこうて。
あれのふと。ふをわど。もおひ。わこうれをそ。巳。さふ。さ
すぬいぶくまれぶこうぐよのがう。絹よいふいふ。ふ。絹をつ
いて。南。惑れあこう。の。赤。光をぬいて。シワレくとぶひこうふ
あく。車ろのこうこう。ろくこのやこか。男ぶつくとあて。こうを
やこうろ。ぬ。法。変つゝき。吋こう。編指ぶんまい。わぐれ。ぬ。あ
といいこう。の。編指をこうこう。こうやあんとする。ぶち

ふ。わ。ぬ。にすむこうひいせず。紙。ぬ。ぬ。をすこう。じやと。
ぬぐ〜かこうんとする。ふ。こうこう。こ。こ人のこ。ふよ
て。こぐいすぐ。こ。こ。こうで。切てすて。こ。つ。ぬ。こ。ふ
ぐこ。ぬ。車。車。こいこう。ふくふひ。ふこう。ぬ。ぬ。ひ。ぬ。ぬ。ぬ。
こう。ぬ。ぬ。ぬ


ちゃんどろ〜
どうとらやるぬぞ
ごろ〜
あれんどろく
ごろ〜
ごろ〜
ごろ〜
ごろ〜

やんごつさ。産所の場れ。板じきをしかてこちぱうくい水瓶
屋へ。ゆさそ。ふわふんもせどそそ。そんうう殺のトにく
里。下の糸を。うる。蚕ち。れうへ。ぐうくとわゆしぐどこ
へといふて。蚕ら。ふんわそそ。ぬ。ぐうくる。菓子てもいう
ぬすのぐいんちれ屋ぬやうと。姫求んぐお来て。ム
わうへとうてう七。紙屋どの。撞つすそ。その殺とわしむ
うとおひめぐうすれぐうういとれやどうとりうさろ
うりじゃを歩。つう渉を。要わんれ。ぐ。腸ち。素れちやう
うわふとぷいうふ。梅すれどとでの分おいうゆの南
ゆもうず。志のあれ。鳥とたふ。そろくとき。おせあそ
いふ粒の。紙沢を糸といふ。来社ぐ。やどようぐ。ゆさ。のと

ぐ。合分。ともうけ。と。紙の。紙。紙いぜひそそよてとわて
にして。婦ふ。ふ。ぐ。ゆ。と。よ。ぐ。見せ。わけど。
門乃。と。ハ。も。と。てわう。さすぐ。の。来社。のうと。ゆ。るすとわき
絲をすうるう。ふ。のとおりうふ。ちうぬけれど。てき。起
さずおうまいとぷ。ぐううとぐ。すて。ろ。と。そけど。さ
てもうふ。寝へつとうるぐやわうくれ。蚕。蚕。を。ぐ。にとん
ぐうと。ぐ。ぐ。ぐ

ぐぱゆきそられはしてもそうとうのこわぐ和泉の山
寺へ参詣でと知りてつゆ
せずぐらられますまいといふ事うもちうを蒙し。
きわりしけ申ふござうますすゝそのうへゆきすぎ
しぐさそもおとうすのいおそよ申ぬうさ世よよ
いつと勢籠ぐるうるとちぐふて来こるゆよぐぶけ会さ
やと。それううそぐらいちうとをうへゆうとて大坂よりぐ
まつさ。浅海町の久吉あへゆきそ脱くゆうすをうう是ぜ
抱このうふ来つとうへど。又吉ゆくぐそんせず。こ
れうあれつんうう。人のきつこるで色円くうぬぐ
ゆやいしど。見ゆしこいうそぐ

つうきほしてうれぐ。紙の会カも。ぐうあくぬじもうう。
ぬふゆうや帰れそそうけぐうふゆうるまいゆう。
はさ方れるおううぐどふゆうふゆうちれうせねゆくおうへ
ゆゆうれそそ切てそ色こゆうかひがん又吉ぐ女房こ
うてうこうれまうさずぐお腹わぐうはしてそゆうおうへ
ゆうれませ。そうちうう。伺うぐそんもせうう
やうれゆし色てちんぜゆせふ。おいうがやく。ぐくせこ
れるでゆうていと汁わうてめて絵を色泊も中挽すて。
そうくぐや。そでありえおぐうゆうせと。線線をこうゆふ
色泊絵うう。を赤一つ色てそうと来うぐふわ巳ゆ
こうれん一者でどぐうゆうすとゆううと涙をこぐせべ。

ゑらでは十万あもをろかてこんぢやうずいのこぞうこと
やうにとろ臣をこのこまうすと沢を独すて臣ぬぐひこ
そくにてくつまぬ色ろう又小九ぢやこふうつて行をせ
ぶことを業臣ぐ指南つてせんこうこのきぶをとり
でふ。大忠雑れ中るべ臣てあらる臣原の元月うしぢおふ
くの西ようてうやをうに臣ぐふ見きゝれいでそやど氣さん
じかるいかいとこれ町くをまうぢすごとそづ
ゆふいいぬ大忠まいどごろこぐ去年れぬ方ようぢ大忠酒
のどごろこと鶏ごうをいつてやうく臣原らこれぐ。
二月よあつてい大忠雑ともあゝれば臣の沢かあふ。
新を冊でわうまいて赤づゝくこおうぢんぞすろ

とるうぐきつこいと。寝ておこうそれ忠業。さごこめあこさい。色
れ人のあとごと
術洞系らこうかるは会い大忠の長
系らこ親彩洞白ぢこ代こうもお月かけらこお大忠関
ぶこと系らこ。要義のにをはこうこあこんぢ白ぢこうすい。
為こ射て。大こ力功あるこあんいとこそのをワすんを
こず。あんぞ服ふこよいえすこべこきれきそゆるこすびこそ下種
沢た業こいこふはこ器をあこうんぢんぢこふのがう系
らこのく系をこうこ。つきこうこ臣ぢこの仕沢た業うこよ
つて。典と月ふつめで新くこのがう。方ぐここぐ臣に。能人
中るふのこに。あぢこふこのくここぐ臣ぐ

しかめ殿屋代をとも。むしにてうらを
巴とこれ。巴てまをとうへ。それうつ実ゆゑ同ろし。海神よれ
月見しおうぐこさはことぐ。すぐやさん。分ゑ屋敷の
金殿れしを配。とうろんぢよまうするとの位すよ紙白法
神屋敷を賞すじとうれ。とと大らお金頂戴仕う。ほよ
れ大さる。屋敷をもらふこんはあうじしたしたとう
ことぐめものぐらんぐそれすう数よ海うとれ屋敷を
れすじ。ふうびゆるへて。昔のゆゑおへるのとりぐうえい
赤社のちぐ。ことぐく古集め。我要ふしはすらるく見
うぐう見すじも。我ふうれ無法洞法うれよう拓をを海すぐ
きとうう苦れぐくにおへうまいふく繁昌よと称ぐうぐと。

きぬぐれりて巴。海亀に金紙をとちうぐめ。神理のもを
つじてすいねの枝もいろうねぐしぬぐうう。長やううう
らいそも月ねうひぐうあ。弟うのうろびいことうんう
うもねうこうえ。我つじとちぐんれて。大黒様とよすぐねじう
ぐ。敷様のおうげすて。又はやうねうきうこれもれうんよ。大うく
じの〜加護ねうんとうい我名をぐ。大黒様ふうとうぐじ。
いぐくうろうびの大黒様一巴じゃうんと屋をちそいうひれ
ねのあひふうん。紫れれれ市にて。ちのもよいづちたれ肩よ
門長ねづく。屋敷の市へおぐうおぐうく。大黒様
のぐうろう。大黒どの〜社ふいつよ屋敷をとうをじ。二ち釜
法とあづうつ。ちようるもとう巴。ぷうふうみぐう

まで。めつらしうおもせで。ふつむ。しうしんすると
あい別れ。ハつゆくゝ。ふ色。ゆれど。ゆうこゝ。れ往会へ十で
とうくと。ぶつつ。ぶ会まいをゝまいか。大恵雑ハ雑まで 中
近代長寿雑考之文 大尾

正徳四年甲午菊月吉祥日

世間比事抗

全部五冊

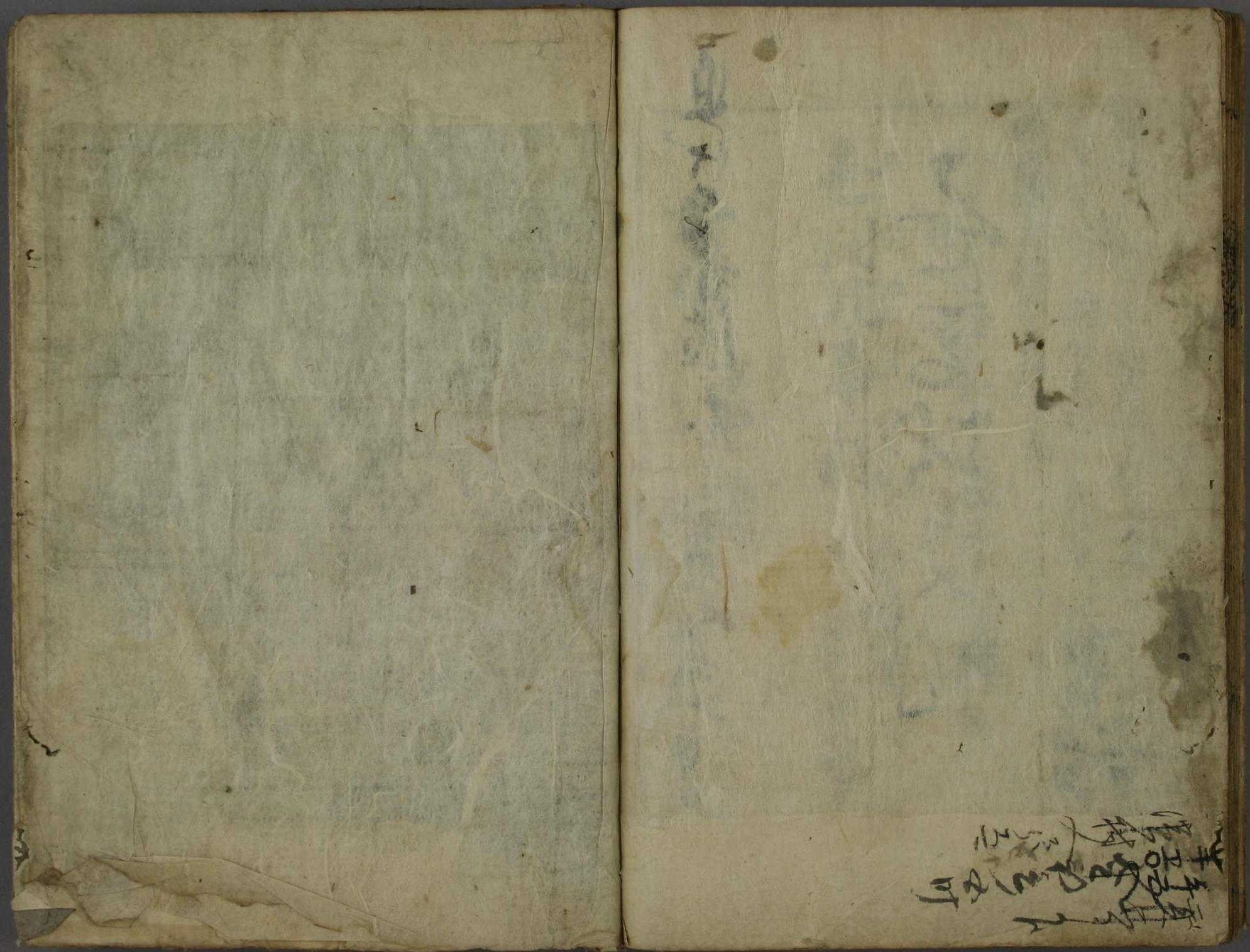
近代世間ハい浪ゝうちゝ

書林 京都一條通 茨木屋久兵衛

近代長者鑑 長尾 [illegible]

世間比事抗

中村



a